

2015年2月3日開催 第595回番組審議会

■ 出席委員

櫻井美幸委員長、佐藤友美子副委員長、上田理恵子委員、神谷徹委員、小菅洋人委員、佐藤卓己委員(書面)、中野健二郎委員、東野博昭委員

■ 毎日放送出席者

河内社長、松島専務、榎本専務、梅本常務、豊田取締役、木田取締役
赤阪コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長
泉報道局長、山田チーフ・カメラマン

◆ 審議事項

震災報道番組

映像記録「あの日あの場所、あの人と」(2015年1月11日(日) 25:55~27:15 放送)について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *カメラマンがゆえに取材ができたというのは、この番組の一つの特徴だ。
- *新聞だと過酷なシーンを追い求める傾向があって、そうでないとなかなか載らないが、これから入学式に行くとか、パーティーの様子は新聞では描けない。映像は強く訴えたと感じた。
- *心に残るすばらしい番組だった。カメラマンの方々の誠実さが番組のいろんなところに出ていた。
記憶がよみがえったのと同時に、自分自身がこの20年一生懸命生きられたかと問われている気がした。
- *何かメッセージがあると逆に歪んでしまうおそれがあるが、単に事実を提示し、ドラマがあったり、受けとめる人によって感じ方は変わってくるが、それがよかった。テレビ的というか、テレビのいいところが出ている。
- *人探し・20年の人の変化・街の変わり具合を同じポジションで見せる、という魅力がぎゅっと詰まっているので、扱っている対象は震災だが、番組全体がとてもわかりやすかった。
- *もっと深く知りたいという気持ちは起こるが、番組でそれぞれ「20年」という時の流れの多様さは十分に表現できていた。
- *タブレット端末がすごく重要な位置を占めている。喚起するものがすごくある。それが若いカメラマンだからできて、若い方がまとめられた意味があるんじゃないかと思う。
- *いろんな方、人それぞれの震災という意味があって、その後の生きてきた20年という時間があるというのが、それぞれに伝わってくる。まさに生きていく人間の記録だと感動した。

以上